

である平成二十二年に合わせて整備していききたい」との答弁でした。

我孫子駅改修概略図

JR東日本東京支社は作成中であった全体概略図、正式には「我孫子駅自由通路拡幅及び構内バリアフリー検討図」を五月初旬に我孫子市に提出。私たちが議員には五月十七日の市政懇談会資料として配布されました。

内容は「自由通路の拡幅」について三案及び「西口改札新設」について二案の計五案が提示されています。

六月議会で市長は、「今回の改修計画はJRのバリアフリー計画に合わせて自由通路拡幅を行うもので、全面的な改修計画ではない。時間的な制約の中で事業化していくものであるため実現可能な現実的な改修案を提示した」と述べました。

40年1層のチャンス

駅北口西側地区の日立精機跡地の大型マンション群開発、南口のけやきプラザのオープンと我孫子駅周囲の環境は大きく変化しています。

また、市が現在進めようとしている「一手賀沼文化拠点整備構想」の玄関口である我孫子駅は四十年に一度の大改修のチャンスを迎えています。将来のまちづくりを考慮に入れた夢のふくらむ駅改修を行わない重要な事業だと考えています。改修にあたっては、市の玄関口である我孫子駅の全体イメージを考えたうえで整備案をまとめていくべきです。自由通路の拡幅と西側階段の新設を基本としながらも、自由通路デッキ部分の確保と表玄関にふさわしい景観、駅前観光イ

ンフオーメーションセンターを考慮に入れた駅。限られた財源、工期の制約の中でベストの改修が行われるように全力で努めていきます。

今後の予定

改修スケジュールは平成十九年から二十二年までの四年間で、市民へのパブリックコメントの実施も計画されています。

補助金の活用については、当初都市再生交通拠点整備補助金を考えていましたが、平成十九年度に制度が見直されて、都市交通システム整備補助金が創設されました。現時点では、この補助金の活用を検討しています。



千葉柏道路(国道十六号)のバイパスについて

国土交通省では、国道十六号の渋滞を解消するため、具体的な千葉柏道路の検討に向けて平成十八年十月に検討会を設置(平成十八年十一月)した。その後、検討会は平成十九年五月三十一日、新聞折り込み千葉柏道路の新たな計画のたき台として「利根川沿いのルート」を具体的に検討する案を全戸配布した。現在、パネル展の開催を周知させるため、市民の声を聞くや広報を使って市民の声を聞くアンケート等を実施している。概略計画の決定(公表)を平成二十年

三月を用途として計画は進められている。平成十三年から検討が進められていた千葉柏道路協議会が昨年六月に提言を公表。手賀沼を横断するルートから利根川沿いを大きく迂回するルートに変更されたことは一つの成果と我孫子市では考えている。

しかし、利根川沿いのルートでも、東西に細長い我孫子市の長い区間にわたり通過することが予想され、周辺の住環境や利根川、古利根沼などの自然環境への影響、道路交通網の整備や、これまで進めてきたゆうゆう公園の整備事業などさまざまな施策への影響が心配されている。

⑥六月議会 都市建設常任委員会 印南の発言要旨

一、千葉柏道路の検討状況、市民への周知徹底に努めてほしい。(情報の発信)

二、利根川沿いのルート案になった場合の対策、課題の整理、事前調査を徹底強化せよ。

特に早急に市内に千葉柏道路対策検討委員会を組織化(副市長をヘッドに)万全な態勢で行うこと)、市の考え方を整理し、まずは現況をしっかりと把握した上で、問題を整理するべき。

特にスーパ堤防の構築が、可能か否かも重要な問題だと考える。古利根沼、自然環境、利根川ゆうゆう公園に入るアクセシブルの安全性確保等、問題が山積している。

三、経済活性化策につながるバイパス道路とすることが、出来るかどうか? バイパスを単に通過道路としないための策をどうするか? 農地との関係や茨城県、取手市(小堀地区)との関係をどうまとめたいのか?

四、市は国道十六号の渋滞改善策も同時並行して事業を進めていくように国土交通省、千葉県に強く働きかけを行うこと。



六月議会での成田線関連 Q & A

Q: 特別快速の我孫子駅停車実現について、その後の進捗はどうか?

A: 昨年十一月に九万人を超える署名を添えて、「特別快速」の我孫子駅停車の実現を求めた際のJR東日本東京支社の回答は「今年三月のダイヤ改正での実現は難しい。しかし、次のダイヤ改正で反映できるように検討したい」との回答だった。

市は次のダイヤ改正で「特別快速」の我孫子駅停車の実現に向けて成田線複線化促進期成会や千葉県知事が会長を務める千葉県JR複線化等促進期成同盟、常磐線対策部会・成田線対策部会などを通じて、引き続きJR東日本東京支社に強く働きかけていきたい。

Q: 成田線増発のため四つの増発案に絞り込み、負担を含めた具体的な提案をしていくべきではないか?

平和台雑感

布佐平和台(自治会)地区は平成十八年度、住まいまちなみコンクールで栄えある「住まいまちなみ賞」を受賞した。国土交通省後援、(財)住宅生産振興財団が主催し、全国に呼びかけ、わが町こそ地域住民の活動により、良好な住環境が維持されている「まちなみ」として布佐平和台が選ばれたのである。この受賞は自治会で日々役員として努力してきた皆様の汗と涙の結晶、賜物である。自治会の基本概念である「みどりと景観の維持増進」を図るため、建築協定の改定、更新に毎週会議を開き、議論してきた役員の皆様、海外に住む人からも実印とサインを集めて更新したように、まちなみを守るため自治会の皆様の努力は並大抵のものではない。素晴らしい住環境で住んでいられることに心から感謝したい◆六月一日、手賀沼ふれあいライン沿いに、「あびこ農産物直売所」がオープンした。市内の農家の皆さんが生産した安心、安全、新鮮な旬の農産物が店頭に並んでいる。この直売所は将来、本格的な農業拠点施設を整備するためのアンテナショップ(市場を調査する店)の役割を担っている。強力なライバル「道の駅、沼南」の農産物直売所がすぐ近くに存在する。また、六月八日には布佐に近い、

印西市大森に「産直広場、陽だまり」がオープン。二番煎じ、三番煎じの農産物直売所が強力なライバルに勝ち、成功するためには、それなりの魅力、リピーター客を生む営業努力が必要となる。あびこ型地産地消、環境保全型農業を実現するため、我孫子にオープンした農産物直売所が大きく前進するように努めていきたい◆日経プラスワン【何でもランキング】で妻が「夫に言われて傷ついた一言」の一位は「君も太ったね」であった。では、妻の言葉で夫の不満の第一位は「うちにはお金がない」「生活費が足りないわ」であった。夫側の解釈を私なりに考えると、この言葉は単に収入の多い少ないだけの問題ではなく、「私は幸せではない」と妻に言われているように感じられた。これ以上、俺にどうすればいいのか。一家の大黒柱としてのプライドがなんとも情けない。逆に「妻に言われてうれしかった一言」は一位が「ありがと」「二位は「いつも苦勞さま(お疲れ様)」である。日常的に交わされる何気ない言葉が上位を占めた。皆さんはどう感じますか?私は妻が自分のことを心配してくれる素振り一つで毎日を元気で過ごすことが出来る。男は単純な動物である」と実感している◆大阪市で大学・短大を卒業したのに高校卒業だけを受験資格とする試験に応募し、採用されていた職員九百六十五人を停職一ヶ月とする処分を発

表した。(学歴詐称)とは、高卒を大卒と偽ったり、留学をしていないのに海外の大学卒と経歴に書いたりすることと思っていたが、(政治の世界では)最近では同じ詐称でも学歴を低く偽るケースが問題になっていく。少し淋しく、悲しい。いつそのこと、職種を学歴で限定しなければ良いと思う。世はまさに大学は「全入時代」、大学を出ても知識・能力で不安な人、高校卒でも大学卒を凌駕する人もいる。職種選びを学歴で制限しない成果・実力主義が必要と思う。日本の教育の根本的な問題がある。◆平成十七年八月TX(つくばエクスプレス)開通後、柏駅周辺に異変が起きている。柏駅乗降客数の推移でも駅前店舗への客足が遠のく傾向が顕著になっている。柏駅の一日の乗降客数は、四十二万人(平成十七年)が三十九万人(平成十八年)と三万人減少している。逆に柏の葉キャンパス駅、流山おおたかの森駅、はそれぞれ九千人、二万五千人と増え続けている。近隣に続々と誕生する大型ショッピングセンターは柏駅前商店街の脅威となっている。TXの影響はJRの営業戦略にも大きな変化を生んでいる。我孫子駅、天王台駅に停車しない常磐線特別快速を走らせ、茨城方面の客をターゲットに上野(東京)により早く、快適に通勤させる電車を走らせてTXに対抗している。成田線の利用者も減少している。平成五年の布佐駅

印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台 7-1-18
Tel 7189-1598
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp
ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/



宏

一日平均乗降客数は八千二百六十六人、それが平成十七年には四千六百七十四人へ、平成五年の湖北駅は六千五百二十九人、平成十七年は四千六百二十人と激減している。そんな中で成田線の利便化運動を展開している。平成五年をピークに利用者が毎年、減少している成田線。成田線複線化促進期成会も近々、名前の「複線化」を削除し、成田線の増発に的を絞って運動をしていくことになる。少なくとも二十分に一本は走る路線にするために。